

分散名人

追加型投信/内外/資産複合

交付運用報告書

第5期(決算日2023年3月20日)

作成対象期間(2022年3月23日~2023年3月20日)

第5期末(2023年3月20日)	
基準価額	11,920円
純資産総額	10,070百万円
第5期	
騰落率	△ 2.2%
分配金(税込み)合計	0円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」を選択し、該当のファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「分散名人」は2023年3月20日に第5期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドは、主として、投資対象ファンドへの投資を通じて、国内外の7つの資産(国内債券、海外債券、国内株式、グローバル株式、国内リート、グローバルリート、金)に分散投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。



ちばぎんアセットマネジメント

東京都墨田区江東橋2丁目13番7号

<照会先>

電話番号：03-5638-1451

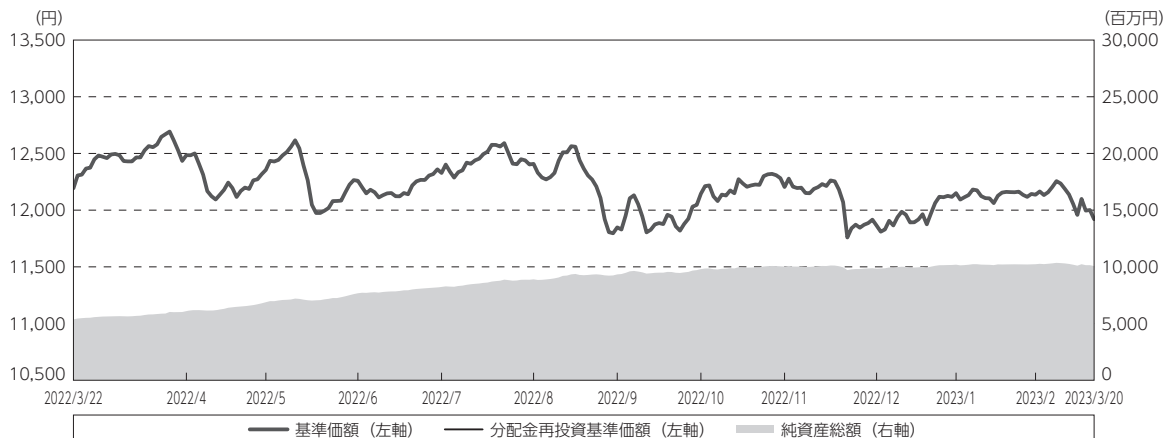
(受付時間は営業日の午前9時~午後5時です。)

ホームページ：http://www.chibagin-am.co.jp/

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年3月23日～2023年3月20日)



期首：12,193円

期末：11,920円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 2.2% (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首(2022年3月22日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注4) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの投資対象ファンドの騰落率は以下の通りです。

組入ファンド	投資資産	当作成対象期間末 組入比率	騰落率
日本超長期国債ファンド（適格機関投資家向け）	国内債券	14.9%	-5.0%
高利回りソブリン債券インデックスファンド	海外債券	14.5%	3.8%
日本株好配当マザーファンド	国内株式	13.6%	1.7%
グローバル・ハイインカム・エクイティ・ファンド アンヘッジド・クラス	グローバル株式	13.6%	1.0%
Jリート・アクティブ・ファンド（適格機関投資家向け）	国内リート	14.2%	-4.5%
グローバル・リアルエステート・ファンド（適格機関投資家向け）	グローバルリート	13.6%	-5.1%
FOFs用ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり（適格機関投資家専用）	金	15.2%	-5.2%

(注1) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 騰落率は分配金再投資ベースです。

当ファンドの基準価額は、当期末において11,920円となり、期首比2.2%（信託報酬控除後）の下落となりました。なお、当期の分配は見送りました。

金やグローバルリート、国内債券などがマイナスに影響しました。

1万口当たりの費用明細

(2022年3月23日～2023年3月20日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	112	0.919	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(47)	(0.383)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(60)	(0.492)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(5)	(0.044)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	8	0.062	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株 式)	(8)	(0.062)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	1	0.005	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	121	0.986	
期中の平均基準価額は、12,221円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）が支払った費用を含みません。

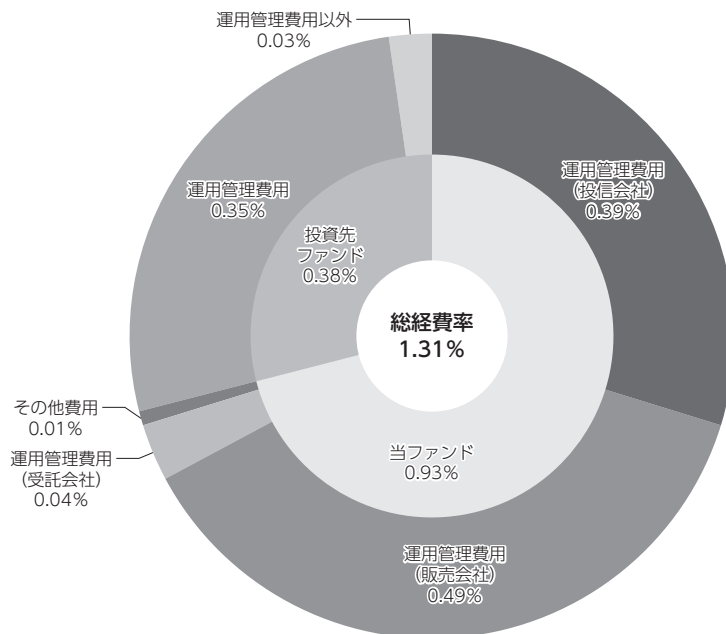
(注5) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注6) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.31%です。



(単位:%)

総経費率(①+②+③)	1.31
①当ファンドの費用の比率	0.93
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.35
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.03

(注1) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注5) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドのうち、「運用管理費用以外」には、外国籍ファンドの費用の一部が含まれていない場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年3月20日～2023年3月20日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 当ファンドの設定日は2018年5月16日です。

	2018年5月16日 設定日	2019年3月20日 決算日	2020年3月23日 決算日	2021年3月22日 決算日	2022年3月22日 決算日	2023年3月20日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,310	8,766	11,583	12,193	11,920
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	3.1	△ 15.0	32.1	5.3	△ 2.2
純資産総額 (百万円)	3,488	7,088	4,493	4,772	5,367	10,070

- (注1) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2019年3月20日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注4) 当ファンドの運用の基本方針に適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を特定していません。

投資環境

(2022年3月23日～2023年3月20日)

国内債券市場

国内債券市場は、債券価格が下落（金利は上昇）しました。期初から2022年6月にかけては、欧米金融当局による金融引き締め姿勢などを受け債券価格は下落しましたが、8月中旬にかけて、日銀が大規模な金融緩和政策を維持したことや、米中関係の緊迫化が警戒されたことなどから、価格は上昇しました。その後、2023年1月中旬にかけては、欧米金融当局による積極的な利上げの継続に加え、日銀が長期金利の許容変動幅を拡大したことが金融緩和の縮小に向けた動きに相当するとの受け止めが広がり、債券価格は下落しました。3月上旬にかけては、日銀による金融政策の緩和縮小が見送られたことで急反発する局面もありましたが、国内物価の大幅な上昇をにらみ緩和政策修正に対する思惑が強まったことで、債券価格は再び下落しました。期末にかけては、植田次期日銀総裁候補の所信聴取などを通じて当面は金融緩和政策が維持されるとの見方が強まったことや、米国地銀の破綻を発端とした欧米での金融不安を受けて安全資産としての国債が選好され、債券価格は持ち直しの動きとなりました。

海外債券市場

高金利海外債券市場は、債券価格が下落（金利は上昇）しました。期初から2022年6月中旬にかけては、米国や英国の金融当局による利上げ実施や欧州中央銀行（ECB）による金融政策正常化の前倒し観測、インドやブラジルの利上げなどが嫌気され債券価格は下落しましたが、8月上旬にかけては、欧米景気の先行きに対する懸念や中国での新型コロナウイルスの感染再拡大、米国の急速な利上げ観測の後退などを背景に、価格は上昇しました。10月下旬にかけては、欧米金融当局による積極的な利上げ継続観測や、英国の大規模な減税策と国債増発計画などを受けて、債券価格は下落しました。その後、2023年2月上旬にかけては、英国での大規模減税計画の撤回や、米国や欧州でインフレ圧力が弱まるなか主要金融当局が利上げペースを緩めるとの見方が強まったことなどを背景に、債券価格は上昇しました。3月上旬にかけては、米国の堅調な雇用情勢やインフレ圧力の高止まりなどを受け、欧米金融当局による利上げが長期化すると観測が強まり債券価格は下落しましたが、期末にかけては欧米での金融不安を受けた世界景気の悪化懸念やリスク回避姿勢の強まりなどを背景に、持ち直しの動きとなりました。

なお、為替市場では日本と海外主要国の金利差拡大などから、円安米ドル高が進行しました。

国内株式市場

国内株式市場は一進一退の動きとなりました。期初から2022年5月中旬にかけては、中国の都市封鎖措置による景気鈍化懸念や米国金融当局による大幅利上げの決定などを受けて、下落しました。その後、6月上旬にかけては中国・上海市の都市封鎖が解除される見通しとなったことなどをを受けて上昇しましたが、7月上旬にかけては欧米金融当局の金融引き締めによる世界景気の減速懸念などを背景に、下落しました。8月中旬にかけては、中国の景気対策への期待や参議院選挙での自民党の圧勝、米国の利上げペースが緩やかになるとの期待などから上昇しましたが、9月にかけてはジャクソンホール会議でパウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長が利上げを継続する姿勢を示したことや、英国金融市場の混乱などを受けて下落しました。11月下旬にかけては、英国を中心とした金融市場の混乱が落ち着きを取り戻したことや、米国の利上げペース鈍化への期待などから上昇しましたが、2023年1月にかけては米国景気の減速懸念や日銀による長期金利の許容変動幅拡大を受けて、下落しました。3月上旬にかけては、

米国の金融引き締め長期化懸念の後退や日銀による金融緩和政策維持などを背景に上昇しましたが、期末にかけて欧米での金融不安を受けて下落しました。

グローバル株式市場

グローバル株式市場は下落しました。期初から2022年6月中旬にかけては、米国における大幅な物価上昇を受けた米国金融当局による金融引き締めへの懸念や景気減速に対する警戒感、ECBが7月以降の利上げ実施方針を示したことなどを背景に、下落しました。8月中旬にかけては、米国金融当局による利上げ加速観測が後退したことや、ロシア産天然ガスの供給不安が和らいだことなどが好材料視され、上昇しました。10月中旬にかけては、米国金融当局による利上げ継続観測が再び強まったことや欧州における天然ガス価格の急騰、英国における財政悪化懸念の台頭などを背景に、下落しました。その後、2023年2月上旬にかけては、英国を中心とした金融市場の混乱が落ち着きを取り戻したことや米国金融当局が利上げペースを緩めるとの観測が強まったこと、暖冬の影響で欧州のエネルギー供給に対する懸念が和らいだことなどが好材料視され、上昇する局面もありましたが、期末にかけては、米国での物価の高止まりを背景に利上げが長期化するとの見方が強まったことや、米国地銀の破綻を発端とした欧米での金融不安などを背景に、下落しました。

なお、為替市場では日本と海外主要国の金利差拡大などから、円安米ドル高が進行しました。

国内リート市場

国内リート市場は下落しました。期初から2022年6月上旬にかけては、日銀が特定の年限の国債を固定金利で無制限に買い入れる指値オペを実施したことや、国内株式市場が上昇したことなどが支援材料となり、上昇しました。その後、6月中旬にかけては米国金融当局による大幅な利上げや都心部オフィスの平均賃料の下落などを受けて下落しましたが、8月にかけては日銀が指値オペを継続し長期金利の上昇を抑制したことや国内株式市場の上昇などが追い風となり、上昇しました。10月下旬にかけては、欧米金融当局による金融引き締めの動きなどを背景に下落しましたが、11月上旬にかけては米国の金融引き締めペース鈍化への期待や日銀が金融緩和政策を維持したことなどをを受けて、上昇しました。その後、12月中旬までは一進一退の動きでしたが、期末にかけては日銀が長期金利の許容変動幅を拡大したことや欧米金融当局の金融引き締めによる世界景気悪化への懸念、欧米での金融不安などを背景に、下落しました。

グローバルリート市場

グローバルリート市場は下落しました。期初から2022年6月中旬にかけては、米国の金融引き締めへの懸念や米国長期金利の上昇、ECBによる利上げ観測やウクライナ情勢などを嫌気して、下落しました。8月中旬にかけては、欧米での長期金利の低下やグローバル株式市場の上昇などが追い風となり上昇しましたが、10月中旬にかけては、米国において利上げ継続観測が強まり米国長期金利が上昇基調となったことや、欧州のエネルギー供給への不安、英国での財政悪化懸念など悪材料が重なり、下落しました。2023年2月上旬にかけては、英国の新政権に対する政策期待が広がったことや、米国金融当局が利上げペースを緩めるとの観測が強まり米国長期金利が低下したこと、世界的な株高基調などを背景に上昇する局面もありましたが、期末にかけて、米国で物価が高止まりを示すなか利上げの長期化観測が強まったことや、欧米での金融不安を背景に投資家のリスク回避姿勢が強まり、下落しました。

なお、為替市場では日本と海外主要国の金利差拡大などから、円安米ドル高が進行しました。

金市場

金価格は上昇しました。期初から2022年7月中旬にかけては、米国や欧州の金融当局が金融引き締め姿勢を強めたことや、為替市場で米ドルが主要通貨に対して上昇したことなどが売り材料となり、下落しました。その後、8月中旬にかけては米中関係の緊張の高まりや為替市場での米ドル安の動きを受けて上昇しましたが、11月上旬にかけては米国の長期金利上昇を受けて米ドル相場が主要通貨全般に対して上昇したことなどを背景に、下落しました。2023年1月下旬にかけては、米国における利上げペース鈍化観測を背景に米国の長期金利が低下したことや、米ドルが主要通貨全般に対して下落したことなどが買い材料となり、上昇しました。3月上旬にかけては、米国のインフレ高止まりを背景に早期の利上げ停止期待が後退し、世界的に長期金利が上昇したことや為替市場で米ドル高が進行したことなどが嫌気され下落しましたが、期末にかけては、欧米での金融不安を背景に世界的に長期金利が低下したことに加え、相対的に安全資産とされる金を選好され、上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2022年3月23日～2023年3月20日)

○当ファンド

当期末における各投資対象ファンドの組入れ比率は以下の通りです。なお、各投資対象ファンドへの投資割合は、7分の1ずつの均等配分を基本とします。

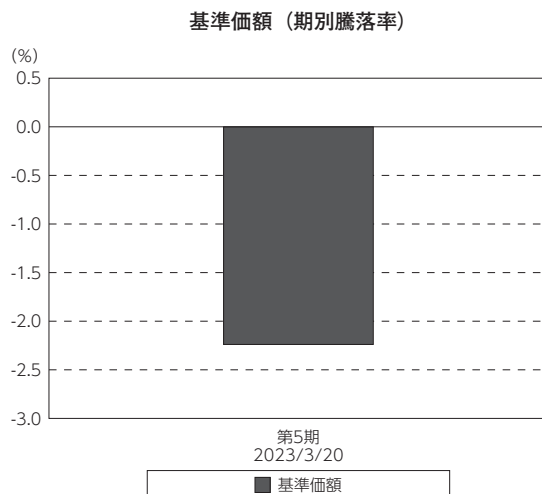
組入ファンド	投資資産	当作成対象期間末 組入比率
日本超長期国債ファンド（適格機関投資家向け）	国内債券	14.9%
高利回りソブリン債券インデックスファンド	海外債券	14.5%
日本株好配当マザーファンド	国内株式	13.6%
グローバル・ハイインカム・エクイティ・ファンド アンヘッジド・クラス	グローバル株式	13.6%
Jリート・アクティブ・ファンド（適格機関投資家向け）	国内リート	14.2%
グローバル・リアルエステート・ファンド（適格機関投資家向け）	グローバルリート	13.6%
FOFs用ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり（適格機関投資家専用）	金	15.2%

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年3月23日～2023年3月20日)

当ファンドの運用の基本方針に適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を特定していません。

右記グラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

(2022年3月23日～2023年3月20日)

基準価額水準、市況動向等を考慮して、収益分配は見送りとさせていただきます。

なお、収益分配に充てなかった収益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項 目	第5期
	2022年3月23日～ 2023年3月20日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	4,350

(注1) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

今後も日本を含む世界の債券、株式、不動産投信、金地金価格への連動をめざす上場投資信託証券 (ETF) 等を実質的な投資対象とする各主要投資対象ファンドを通じて、中長期的に収益が期待できる7つの資産に均等に投資を行ってまいります。

引き続き、値動きが異なる傾向にある7つの資産を組み合わせることにより、基準価額の変動を抑えながら、収益の獲得を目指してまいります。

お知らせ

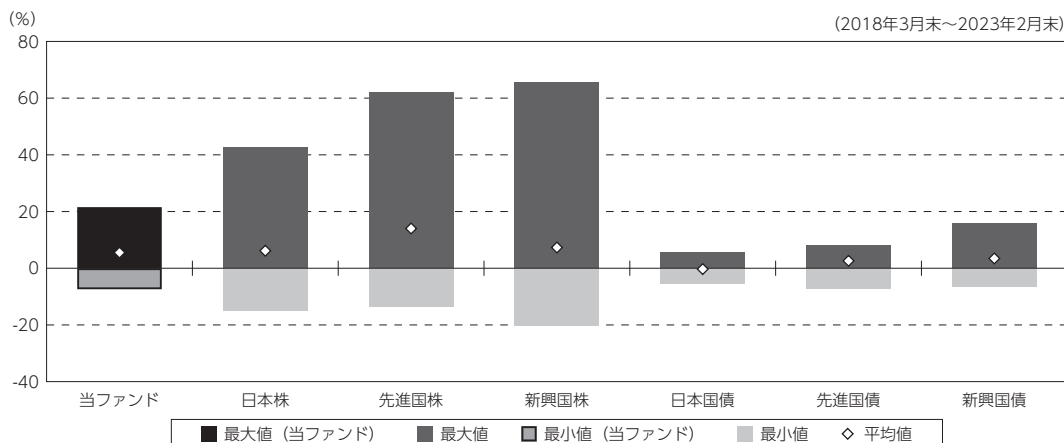
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2018年5月16日から無期限です。
運用方針	投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	国内外の7つの資産（国内債券、海外債券、国内株式、グローバル株式、国内リート、グローバルリート、金）それぞれに投資をする各投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、投資信託証券を通じて、国内外の7つの資産（国内債券、海外債券、国内株式、グローバル株式、国内リート、グローバルリート、金）へ均等に分散投資することで、信託財産の中長期的な成長を目指します。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等のうちから、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配を行う方針です。ただし、分配対象金額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。 収益分配に充てなかった留保益については、元本部分と同一の運用を行います。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	21.6	42.8	62.2	65.6	5.5	8.3	16.0
最小値	△ 7.4	△ 15.1	△ 13.6	△ 20.4	△ 5.6	△ 7.1	△ 6.6
平均値	5.5	6.2	14.0	7.3	△ 0.3	2.6	3.4

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2018年3月から2023年2月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2019年5月以降の年間騰落率を用いております。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注4) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：Morningstar 日本株式指数

先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）

新興国株：Morningstar 新興国株式指数

日本国債：Morningstar 日本国債指数

先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）

新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数

※詳細は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、すべて利子・配当込みのグロス・リターン指数です。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年3月20日現在)

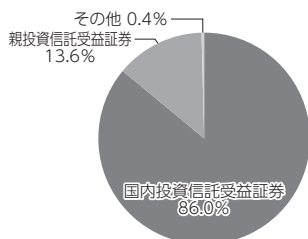
○組入上位ファンド

銘柄名	第5期末
	%
FOFs用ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり(適格機関投資家専用)	15.2
日本超長期国債ファンド(適格機関投資家向け)	14.9
高利回りソブリン債券インデックスファンド	14.5
その他	55.0
組入銘柄数	7銘柄

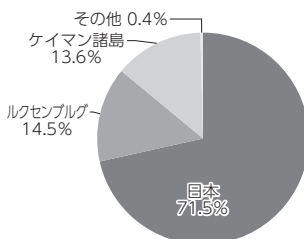
(注1) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

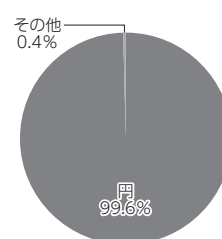
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注3) 国内投資信託受益証券には外国籍(邦貨建)の受益証券を含めております。

(注4) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第5期末
	2023年3月20日
純資産総額	10,070,150,453円
受益権総口数	8,448,250,786口
1万口当たり基準価額	11,920円

(注) 期中における追加設定元本額は4,454,435,960円、同解約元本額は408,547,267円です。

組入上位ファンドの概要

FOFs用ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり (適格機関投資家専用)

【基準価額の推移】

(2021年7月9日～2022年7月8日)



(注) グラフの基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものです。

【1万口当たりの費用明細】

(2021年7月9日～2022年7月8日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 信託報酬 (投資信託会社) (販売会社) (受託会社)	18 (13) (1) (4)	0.143 (0.099) (0.011) (0.033)
(b) 売買委託手数料 (投資信託証券)	1 (1)	0.005 (0.005)
(c) 有価証券取引税 (投資信託証券)	0 (0)	0.000 (0.000)
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (印刷費用)	5 (1) (0) (3)	0.036 (0.011) (0.002) (0.023)
合計	24	0.184

期中の平均基準価額は、12,832円です。

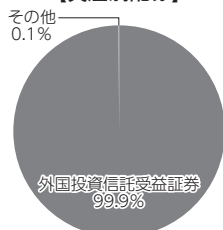
(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

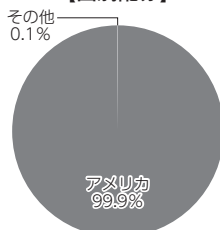
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	ISHARES GOLD TRUST-ETF	投資信託受益証券	アメリカドル	アメリカ	68.0%
2	SPDR GOLD MINI SHARES TRUST-ETF	投資信託受益証券	アメリカドル	アメリカ	26.9
3	SPDR GOLD TRUST-ETF	投資信託受益証券	アメリカドル	アメリカ	5.1
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			3銘柄		

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

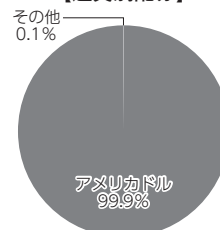
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2022年3月8日現在のものです。

(注2) 資産別・国別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

※組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、当該ファンドが投資対象とするマザーファンドの内容を記載しています。

日本超長期国債ファンド（適格機関投資家向け）

【基準価額の推移】

(2022年3月9日～2022年9月8日)



(注) グラフの基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものです。

【1万口当たりの費用明細】

(2022年3月9日～2022年9月8日)

項 目	第61期～第66期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	9 (7) (1) (1)	0.091 (0.072) (0.006) (0.014)
(b) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (印 刷 費 用)	0 (0) (0)	0.004 (0.001) (0.003)
合 計	9	0.095

作成期間の平均基準価額は、10,281円です。

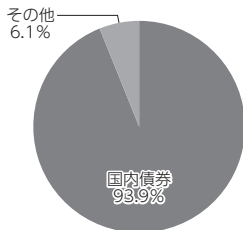
(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

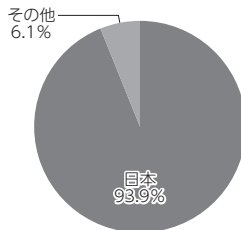
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地 域)	比 率
					%
1	第365回利付国債(10年)	国債証券	円	日本	9.5
2	第150回利付国債(20年)	国債証券	円	日本	7.1
3	第154回利付国債(20年)	国債証券	円	日本	6.9
4	第167回利付国債(20年)	国債証券	円	日本	6.6
5	第159回利付国債(20年)	国債証券	円	日本	6.4
6	第70回利付国債(30年)	国債証券	円	日本	6.0
7	第68回利付国債(30年)	国債証券	円	日本	5.8
8	第171回利付国債(20年)	国債証券	円	日本	5.7
9	第14回利付国債(40年)	国債証券	円	日本	5.3
10	第64回利付国債(30年)	国債証券	円	日本	4.3
	組入銘柄数		22銘柄		

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

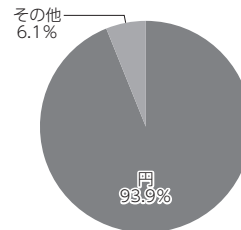
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



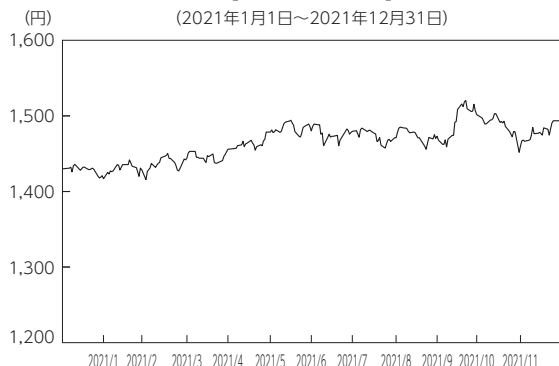
(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2022年3月8日現在のものです。

(注2) 資産別・国別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

※組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、当該ファンドが投資対象とするマザーファンドの内容を記載しています。

高利回りソブリン債券インデックスファンド

【基準価額の推移】



(注) グラフの基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものと
として当社が別途計算したものです。

【1万口当たりの費用明細】

(2021年1月1日～2021年12月31日)
当該情報が取得できないため記載しておりません。

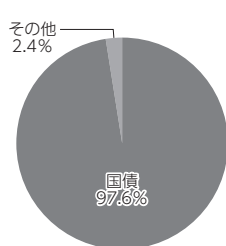
【組入上位10銘柄】

	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率 %
1	MEXICAN BONOS 5.75% 15-05/03/2026	国債	メキシコペソ	メキシコ	1.3
2	MEXICAN BONOS 8% 19-05/09/2024	国債	メキシコペソ	メキシコ	1.1
3	CANADA-GOVT 2% 17-01/12/2051	国債	カナダドル	カナダ	1.1
4	MEXICAN BONOS 7.5% 07-03/06/2027	国債	メキシコペソ	メキシコ	1.1
5	MEXICAN BONOS 8.5% 09-31/05/2029	国債	メキシコペソ	メキシコ	1.0
6	MEXICAN BONOS 7.75% 11-29/05/2031	国債	メキシコペソ	メキシコ	1.0
7	MEXICAN BONOS 8% 03-07/12/2023	国債	メキシコペソ	メキシコ	1.0
8	MEXICAN BONOS 10% 05-05/12/2024	国債	メキシコペソ	メキシコ	0.9
9	CANADA-GOVT 0.5% 20-01/09/2025	国債	カナダドル	カナダ	0.9
10	CANADA-GOVT 1.25% 19-01/06/2030	国債	カナダドル	カナダ	0.9
組入銘柄数			270銘柄		

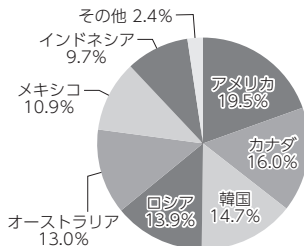
(注1) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

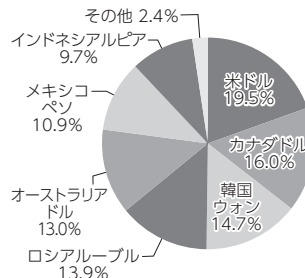
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは2021年12月31日現在のものです。

(注2) 資産別・国別配分・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- **日本株**
Morningstar 日本株式指数は、Morningstar,Incが発表している配当込み株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
- **先進国株**
Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar,Incが発表している配当込み株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。
- **新興国株**
Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar,Incが発表している配当込み株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。
- **日本国債**
Morningstar 日本国債指数は、Morningstar,Incが発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
- **先進国債**
Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar,Incが発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
- **新興国債**
Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar,Incが発表している債券指数で、新興国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、すべて利子・配当込みのグロス・リターン指数です。

<重要事項>

当ファンドは、Morningstar,Inc.、またはイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含む Morningstar,Inc.の関連会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に当ファンドに投資することの当否、または当ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動する Morningstar のインデックス（以下「Morningstar インデックス」といいます）の能力について、当ファンドの受益者または公衆に対し、明示または黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、ちばぎんアセットマネジメント株式会社（以下、「委託会社」といいます）と Morningstar グループとの唯一の関係は、Morningstar のサービスマークおよびサービス名並びに特定の Morningstar インデックスの使用の許諾であり、Morningstar インデックスは、Morningstar グループが委託会社または当ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstar グループは、Morningstar インデックスの判断、構成または算定を行うにあたり、委託会社または当ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstar グループは、当ファンドの基準価額および設定金額あるいは当ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または当ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与していません。Morningstar グループは、当ファンドの運営管理、マーケティングまたは売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstar グループは、Morningstar インデックスまたはそれに含まれるデータの正確性および／または完全性を保証せず、また、Morningstar グループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstar グループは、委託会社、当ファンドの受益者もしくはユーザー、またはその他の人もしくは法人が、Morningstar インデックスまたはそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示または黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstar グループは、Morningstar インデックスまたはそれに含まれるデータについて明示または黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的または使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstar グループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。